

知事コメント

(JR 東・西日本発表 北陸新幹線の令和 2 年度春の臨時列車のダイヤ発表について)

令和 2 年 1 月 17 日

富山県知事 石井 隆一

本日 JR 東日本・西日本より発表された、北陸新幹線の令和 2 年度春（令和 2 年 3 月 1 日～令和 2 年 6 月 30 日）の臨時列車のダイヤについては、臨時「かがやき」・臨時「はくたか」の運転本数が計 604 本となり、「かがやき」・「はくたか」・「つるぎ」の定期列車と臨時列車を合わせれば 11,096 本と、昨年同時期と比較して約 98%の本数が確保された。また、ゴールデンウィーク期間には一日最大 7.5 往復（計 118 本）設定（うち新高岡駅に停車する臨時「かがやき」は 12 本、臨時「はくたか」は 5 本設定）されており、昨年の台風 19 号により被災した長野新幹線車両センターが復旧しておらず、また、被災前よりも少ない編成数での運行が続く中、完全復旧までには至らなかったものの、JR 側の努力を評価し、歓迎したい。

県としても、これまで、臨時便も含めた早期の通常ダイヤへの復旧と新高岡駅に停車する臨時「かがやき」等の臨時列車の設定について JR 東日本の深澤社長や JR 西日本の長谷川社長、国交省の水嶋鉄道局長に直接面談するなどの働きかけを行い、昨年 11 月の北陸新幹線建設促進同盟会等 5 団体による合同中央要請においても臨時便も含めた早期完全復旧等を国や政府与党に対して要望したところであり、改めて感謝申し上げる。

JR 東日本・西日本におかれては、これまでと同様、引き続き、臨時列車も含めた早期の完全復旧と再発防止に向け真摯に取り組んでいただきたい。県としても、新高岡駅に停車する臨時「かがやき」や黒部宇奈月温泉駅に停車する臨時「はくたか」の設定など繁忙期も含めた臨時列車の復旧や、完全復旧までの間の利用者の利便性確保等のため、幅広い関係者の皆様と連携しながら、関係機関に要請していく考えである。